



●議員は原則2期・最長3期で交代 ●議員報酬は市民の活動費 ●選挙はカンパとボランティアで

# つくば・市民ネットワーク通信

発行：つくば・市民ネットワーク  
Tel&Fax:029-859-0264  
つくば市二の宮2-1-3クラフトビル1F  
tsukubahotnet@ybb.ne.jp  
https://tsukuba-net.jp



2023年10月31日 vol.77

## 市民参加の新たな形



### 気候市民会議つくば2023開催中!

つくば・市民ネットワークは、これまで市政における「市民参加」と「情報公開」を求めてきました。市は市民参加の一つとして、各種計画などを検討する審議会や懇談会などの委員選出に、公募制度を設けています。しかし選出方法が手上げ方式だけでは、関心の高い市民に偏りがちです。そこで無作為(くじ引き)に選んだ、より幅広い市民に参加してもらう市民討議会が、全国で広まりつつあります。

昨年市民ネットは、この手法を取り入れた試みとして「気候未来会議inつくば」を開催しました。同じような討議会を、つくば市で開催するよう提案した結果、今年9月から12月まで「気候市民会議つくば2023」が開かれています。

参加する市民は、無作為抽出の5000人に案内状を送り、それに応募した市民569人から50人が抽選で選ばれています。国立環境研究所や筑波大学の専門家の情報提供を踏まえて、将来の「ゼロカーボンで住みよいつくば市」実現の具体策を検討します。会議の結果は、市の施策に反映されます。1回目の話し合いでは、2050年の社会がどうなっているか、以下のようなイメージを出し合いました。

減ったもの 消えたもの…… プラスチック・ごみ・貧困格差・ガソリン自動車・電柱等

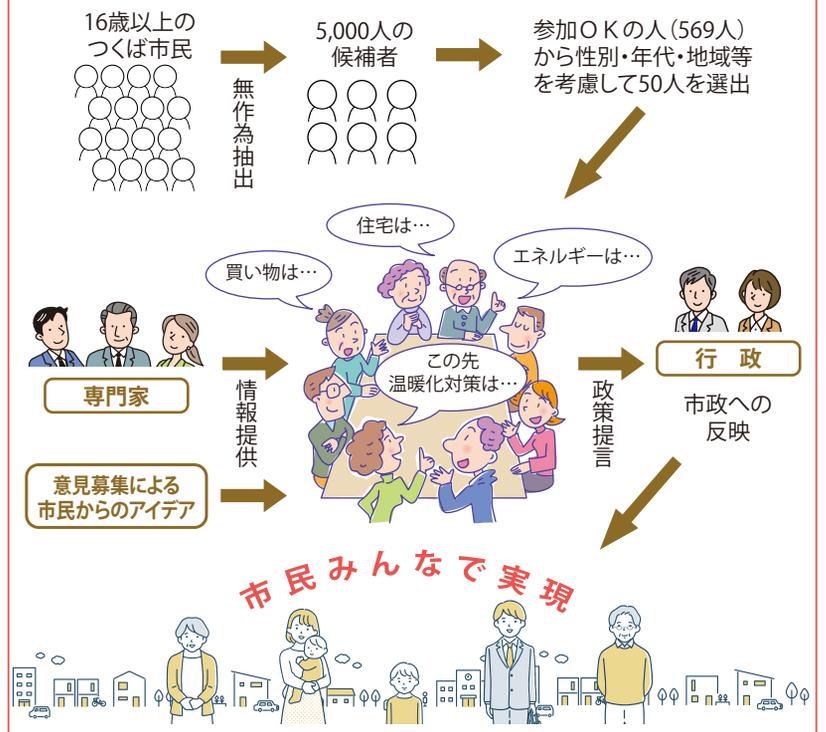
増えたもの 生まれたもの…… CO<sub>2</sub>回収(新技術、システム等)・ごみの自動分別テクノロジー・無人配送(ドローン等)・自動運転等

今後「移動・まちづくり」「住まい・建物」「消費・生活」と毎回テーマを変え、全6回の会議で温暖化対策を検討します。

無作為抽出によって、それまで参加機会が無かった市民の参加で、市政に関心をもつきっかけを得ることが期待されます。また、会議の結果が施策に反映されることで、自分たちが市政をつくっているという実感をもつ市民が、増えることも期待できます。

市民ネットワークは、このような市民参加の新たな方法が、他の政策立案過程でも行われるよう働きかけていきます。

### 無作為抽出の「気候市民会議つくば」とは



### 東海第二原発再稼働問題

## 県民投票で!



「大事なことは人任せにせず自分の意思を示す」のは住民の権利です。その方法の一つに「住民投票」があります。

「住民投票」を実現するには「住民投票条例」の策定が必要です。自治体の長や議員が条例提案するか、住民が有権者の2%の法廷署名を集め「直接請求」という形で条例提案ができます。

「直接請求」は法定署名数を満たすことで、自治体の長は議会に提案しなければならないという法的効力を持っており、重要な市民参加のチャンスです。

今、茨城県では東海第二原発の再稼働を目前にしていません。今後、知事は再稼働に同意するか否か判断しなければなりません。原発再稼働の是非は県民にとって大変重要な選択であり、県民一人ひとりの意思が表明できる「原発県民投票」を行いたい!と県民有志が立ち上がりました。つくば・市民ネットワークも賛同し取り組みを進めています。

自分たちの未来へ向け意思表示できるようまずは「直接請求」実現を目指し、署名集めの協力者登録にご協力ください!

いばらき原発県民投票の会・つくば支部の署名集めの協力者登録にご協力ください! 登録フォームはこちら。 →

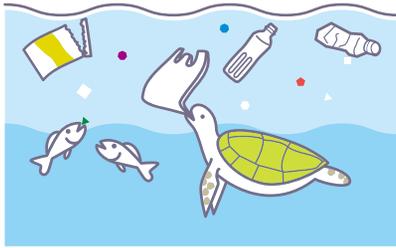


2023年9月15日 気候危機・自治体議員の会の呼びかけで世界気候アクション2023に参加しました

# 人工芝とマイクロプラスチックとPFAS

## ～人工芝は海洋プラスチックの流出源～

海洋ごみの約70%以上を占めるプラスチックごみ。波に打たれ、紫外線にさらされ、少しずつ砕けて5mm以下になるとマイクロプラスチックと呼ばれます。プラスチック自身の有害物質に加えて、海中の様々な汚染物質を吸着してさらに毒性が上がったマイクロプラスチックを、プランクトンや魚が餌と間違



えて食べます。こうやって生物濃縮を繰り返して最終的に私たち人間にも害を及ぼすことが知られています。

その海洋マイクロプラスチックの主な原因のひとつが人工芝。サッカー場やテニスコート、ゴルフ練習場だけでなく、公園や保育施設等でも簡易なマットの形で使われることが多く、その流出抑制策は始まったばかりです。

## ～マイクロプラスチックだけでなく発がん性物質やPFASも！～

充填剤にゴムチップを使う人工芝では、ゴムチップに含まれる発がん性物質や環境ホルモンがかねてより問題視されてきました。しかし、近年水汚染で大きな問題となっているPFAS

(有機フッ素化合物) も人工芝と充填剤双方から検出され、人体への害がさらに懸念されています。

## ～各国で始まる規制～

EUでは、まず充填剤のゴムチップを今後8年かけて禁止する規制が始まりました。米国では、PFASの滲出を理由に人工芝を禁止する動きも出てきています。

日本では、大阪府が「人工芝片とゴムチップの流出を抑制するためのガイドライン」を策定、他の自治体でもフィルターを付けるなどの流出抑制対策を始めたところが出てきました。

## ～つくば市の状況は～

確認したところ、一部学校やサッカー場、テニスコートで人工芝が使われていたため、大阪のガイドラインを参考に流出抑制対策の強化を求めました。保育所や幼稚園、公園などでは、遊具の周りなどに人工芝マットを置くケースがあるということだったので、有害なものを子どもの環境に置くべきではない、と対応を求めました。また、市内の天然芝と人工芝の運動場の10年間の管理コストを比較するとあまり変わらない、との答弁。張り替えコストを含めた精査を行うよう求めました。そしてテニスコートについては、砂入り人工芝(オムニコート)は実は足腰に負担がかかりプレイ面でも世界基準ではないことからハードコートに戻す機運があり、こちらについても調査研究を求めました。



つくば市議会副議長  
総務文教委員会委員  
**小森谷さやか**

### 一般質問項目

- ・つくば市社会福祉協議会との連携について
- ・HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)について
- ・公園の民間事業者による長期占有について
- ・人工芝について



つくば市議会議員  
都市建設委員会委員長  
**皆川ゆきえ**

### 一般質問項目

- ・大雨の際の災害対策
- ・地域で安心して暮らし続けるための保健福祉施策
- ・森林の保全と木質バイオマスの活用

の危険水位が設定されておらず、消防団待機の基準水位も避難勧告水位も設定されていません。

大雨の後の6月3日、森の里地区では、越水を発見した市民や道路パトロールからの通報により消防署や地域の消防団がかけつけ、土のう積みやポンプ排水を実施。また、地元企業から土のうや車両などの資器材提供を受け、昼夜を徹した緊急対策が行われ、床上浸水は防ぐことが出来ました。

# 水害対策の見直しと、水防の情報発信を!

台風2号の影響により6月2日0時から3日12時にかけて、つくば市では1時間当たり最大41mm、総雨量286.5mmの記録的大雨となりました。

今議会で市内の被害状況を確認したところ、下広岡、竹園で床上浸水2棟、その他床下浸水5棟、道路冠水36件、倒木14件、土砂流出10件、水田が約130ヘクタール冠水する等の被害が発生。森の里地区では、谷田川の水位が上昇し、越水や雨水排水管を通して地区内への逆流が複数箇所が発生しました。

つくば市ハザードマップでは、茨城県が浸水を想定した桜川と小貝川の2河川についてのみ色がついており、つくば市地域防災計画も桜川と小貝川だけの水害対策となっています。そのため、これら以外の地区では、河川



つくば市  
ハザード  
マップ→



2023年6月3日 撮影:茨城県河川課

こういった水防に関する対策は市民に知られていないことが多いため、今議会では水防に関する情報発信と、最新の浸水想定区域のハザードマップへの反映を要望しました。

経験したことの無い豪雨が各地で発生しており、今後、身近な場所で河川の越水や内水氾濫・冠水が発生する可能性があります。再度、身の回りの水害リスク、避難の必要性、避難場所等を市や県のホームページ・広報などで確認し、不明な点は市の危機管理課に問い合わせ、災害時の対策を考えておきましょう。さらに、大雨の際に冠水や越水などの異常を発見した場合は、消防署や市役所へ連絡をして下さい。



2023年6月3日 森の里地区  
撮影:皆川

## 2023年9月議会議決結果

※「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度堅持のための政府予算に係る意見書採択を求める請願」、議員提案「介護する人もされる人も豊かに暮らす介護保険制度改正に関する意見書」は、全会一致で採択されました。

議決の結果 (○:賛成、×:反対)	会派名	つくば・市民ネットワーク	つくば自民党	自民党政清クラブ	公明党つくば	日本共産党つくば市議団	創生クラブ	つくばチェンジチャレンジ	新緑会	清郷会	山中八策の会	新社会党つくば
議員提案「ALPS処理水の海洋放出に関し、対応を求める意見書」	否決	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○
各会派の所属議員(敬称略) *は会派代表(議員数26 議長:五頭)		*皆川、あさの川村、小森谷	*黒田、長塚、神谷小久保、(五頭)久保谷	*飯岡、宮本木村修、塚本鈴木	*小野浜中	*橋本山中	*高野小村	*川久保	*中村	*木村清	*塩田	*金子

# 学校図書館、子どものいる時間は開けよう!



学校図書館は、子どもたちの想像力と、学習に対する興味・関心を呼び起こせる場所です。その場を作っていくのが「学校司書」です。

学校図書館の司書には「選書」「各教科で学習している内容を掘り下げる図書の紹介や提案」「適切な廃棄」「レファレンス」と多様な仕事があります。

これらの業務の基礎データを作るためには「蔵書点検」が必要です。多くの自治体では**子どもの利用に支障が出ないよう**、長期休みに行われます。しかし、つくば市では学校司書は長期休み中の勤務が認められていないため、蔵書点検が不十分な学校もあるそうです。

## 図書の適切な廃棄でフレッシュな図書館を

学校図書館のスペースは限られています。その中でいつも子どもたちが新しく、わくわくするような情報を手に取ることができるには、適切な廃棄が欠かせません。

適切な廃棄には基準が必要ですが、つくば市には廃棄基準がありません。ちなみに文部科学省の調査では1校あたり年間約300冊廃棄されていますが、つくば市ではほとんどできていません。まずは全国的な廃棄基準の採用、そして学校司書が長期休みに作業ができるよう改善を要望しました。

## 学校司書の勤務時間を増やして!

一方、古い読み物、歴史的価値のある本の中には司書が時間をかけて選び、紹介する、などで新たな出会いを生む、これも学校図書館の大切な役割です。



そういった作業をするには現在の勤務時間数では全く足りません。そのため、フルタイムで仕事ができる環境を求めて近隣自治体の学校図書館に移る司書もいると聞きます。

司書の勤務時間を増やし、「適切な廃棄でフレッシュな図書館」「子どもたちがいる間は開いている図書館」の実現目指して今後も取り組みます。



つくば市議会議員  
福祉保健委員会委員  
**あさの えこ**

### 一般質問項目

- ・児童発達支援センターの整備について
- ・人工内耳装着者への消耗品の補助
- ・学校図書館の充実について

# LGBTQへの理解を深める取り組み、すすんでいます



つくば市議会議員  
市民経済委員会副委員長

## 川村 直子

### 一般質問項目

- ・市営住宅について
- ・投票の権利の保障について
- ・LGBTQへの理解を深める取組について

少数者(マイノリティ)の課題は、当事者が自分で声を上げることに、多数者(マジョリティ)の意識改革がなくては解決できません。特にLGBTQのこどもの場合、一番身近な保護者にもなかなか言えないため、最初に相談を受ける可能性が高い学校の先生方の理解が非常に大切です。



## つくば・市民ネットワークでは、LGBTQに関する取り組みを提案し、具体策へと繋げてきました。

市では2022年度より教職員と市職員向けに、LGBTQに関する課題を学ぶため、専門家による研修をすすめており、その進捗状況等を確認しました。

答弁によると、教職員向けには2022年度に全校長対象に初めて研修を実施、**2025年度までに全教職員が受講予定**とのこと。また新たな取り組みとして2023年度から関係教職員や専門家等で構成するサポートチームが市内全ての公立中学校等に設置されました。今後は学校の授業の中で扱うことを視野に入れ、取り組みをすすめていくとのこと。

**市職員向けにも数年かけて全職員が研修**の機会を得られるようにすすめています。研修後アンケートでは「これまでの自分たちの“当たり前”の対応を見直していきたい」「周囲に悩んでいる人がいるかもしれないということを念頭に置いた言動を心がけたい」といった声があったそうです。

また新たな取り組みとして、本年度策定された男女共同参画基本計画に**「LGBTQに関する市職員ハンドブック」作成の計画**があります。

ハンドブック作成の目的は、職員が正しい知識を持ち行動できるようにすることです。さらに、作成過程において幅広い職員が作成に携わることで、職員自身の意識変化も期待されます。そのため、特定の担当者だけで作成するのではなく、部署横断的な取り組みを求めました。

性に対する多数派の認識の中で、LGBTQ当事者は生きづらさを抱えており、生涯にわたって自殺リスクが高いと言われていています。周囲の無理解は命に関わる問題です。少数者が生きやすいまちは全ての人が生きやすいまちであり、今後も具体策の提案を続けていきます。



# 介護保険制度見直しに関する意見書、全会一致で可決

介護保険制度は3年に1度見直しており、今年度は2024年度の改定に向けて、国の社会保障審議会で検討が行われています。その主な論点は、要介護1・2を市町村が実施する総合事業へ移行、ケアプラン作成の有料化など、国民や自治体にとって大きな負担増となる内容です。

市民ネットは9月議会に、介護サービス利用料の増額を行わず現行を維持することや、国庫負担割合の引き上げ等を求める「介護する人もされる人も豊かに暮らす介護保険制度改正に関する意見書」を国に提出するよう議員提案し、全会一致で可決しました。





## うののぶこ県議会レポート

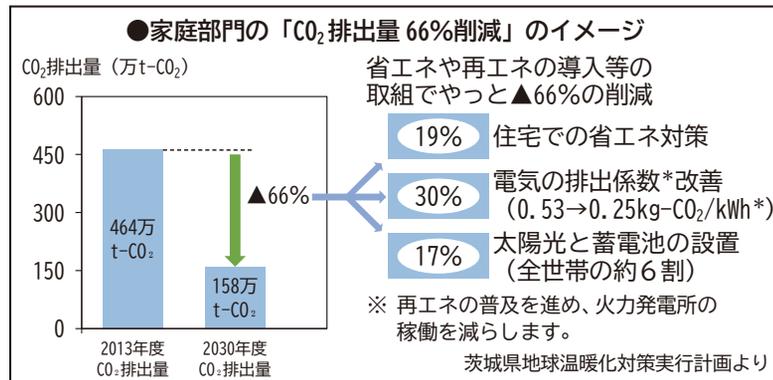
### 茨城県の地球温暖化対策、目標と実施計画が乖離… 防災環境産業委員会で質問しました



茨城県議会議員  
防災環境産業委員  
うののぶこ

茨城県の地域温暖化対策実行計画が今年3月に策定され、温室効果ガスについては家庭部門で▲66%（2013年度⇒2030年度）と大きな削減目標を掲げています。その内訳は図の通りで「太陽光と蓄電池の設置を全世帯の6割」にするとされており、進め方について質問しました。

環境政策課長は「家庭部門66%削減の内訳は、住宅の省エネ対策19%、電気の排出係数の改善30%、残り17%を太陽光・蓄電池の設置で削減しようとする」と、全世帯の6割に設置が必要というイメージを示した」と答弁。具体的な取り組みは、①蓄電池の導入補助金を市町村が補助する際に県が5万円上乗せ、②うちエコ診断を無料で行い、国の住宅省エネ工事の補助制度につなげる、の2つです。



現在、茨城県の住宅の太陽光普及率は8.6%、蓄電池の普及率は0.4%（推計）です。蓄電池の補助の目標件数は2030年度までに累積で9900件と、県内全世帯の6割=72万世帯には程遠い計画です。また、住宅の省エネ対策で19%削減の根拠は「うちエコ診断」を行って家庭で省エネを進め

ると平均19%下がる知見が得られたから、とのことで、それなら全世帯にうちエコ診断を行う必要があります。しかし、2030年までの目標件数は累積で2219件とのこと。削減目標と実施計画があまりにも乖離しています。もっと積極的な取り組みが必要です。温暖化対策に本気で取り組むよう、引き続き求めていきます。

## インターン体験記

つくば・市民ネットワークでは、若年投票率の向上を目標に活動するNPO法人ドットジェイピーの、学生を対象とした議員インターンシッププログラムに協力しています。今回参加した大学生に、感想を聞きました。



インターン活動の中で1番印象的だったのは、つくば市議会の委員会を傍聴したことです。議員の方々と市の職員の方のやり取りを聞き、つくば市の行う事業について学ぶことができました。

どのようにつくば市の行政が進められているのか関心を持つようになり、とても身近に感じるようになりました。今回のインターンには政治や行政について知りたいという理由で参加しました。しかし政治や行政のことだけでなく、環境問題や貧困・生活保護等の問題など、様々な社会問題を知り、活動に参加する機会をいただきました。市民参加ときくと、とても難易度が高そうに思いますが、まずは自分で関心をもって市の行う事業や市民団体の活動に目を向け、知ろうとすることがスタートになるのではないかと感じました。(H.M)



香害を減らすためのオンライン署名にご協力をお願いします。香料や消臭抗菌成分入りの「洗剤・柔軟剤・消臭スプレー等」の日用品で健康被害が広がり、社会問題になっています。「マイクロカプセル香料」などの香りを長続きさせる製法をやめるよう要望します。詳細は →



## つくば市リサイクルセンターを見に行ってきました!



暮らしていくためにだれもが関係する「ゴミ」。8月につくば市リサイクルセンターの見学会を実施しました。小学生を含む19名が参加。リサイクルセンターは、プラスチック製容器包装、ペットボトル、びん、かん、紙類、布類、粗大ゴミ等の「資源ごみ」を「リサイクルできる状態」にする施設です。どの種類でも、異物（その種類でないもの）を取り除く工程があります。ルールが徹底できればやらなくて済む工程もありそうです。

ペットボトルはキャップやラベルがどれくらい取り除かれているかによってランクがあり、買取価格が違うそうです。

プラスチック製容器包装は、あくまで製品が入っている「包装」が対象です。勘違いでよくプラゴミに入っているのが何と「使用済み紙オムツ」! 外装にプラマークがあるためかな、と係の方。

「粗大ゴミ」はリユースされるのは持ち込みで状態のよいものだけ。他は

破砕機に入れられて処理されていきます。

参加者の方からも、「ごみ処理の流れを知り、リサイクルには設備と労力が大変かかることをあらためて実感」「手選別で不適物や危険物等を取り除いていることもわかった」「現場で働く方々が安全に、少しでも効率良く作業出来るよう、(資源)ゴミを出す私達も協力しなければいけないと思った」「資源ゴミに限らず、ゴミを減らす努力もしていきたい」「県外まで持って行っている焼却灰を減らすためにごみ分別の種類を増やしたらどうか」との感想をいただいています。

現場を見て知ることが、自分の生活を見直す第一歩になると改めて感じた見学でした。



## 命と生活をまもるための生活相談会 **無料**

日々の生活で、お困りの方はいませんか?  
就労相談や生活保護などの公的支援は届いていますか?  
相談会では、相談される方にマッチした解決策を一緒に探していきます。



と き: 2023年12月10日(日) 11~13時  
と ころ: つくば・市民ネットワーク事務所  
主 催: 生活困窮ささえあい茨城

## 議員と話そう会 改め

## まちづくりカフェ

県議会・市議会の報告を兼ね、市民ネットの代理人(県議・市議)を交え、様々な情報と意見交換を行います。

11月26日(日) 10時~12時 つくば・市民ネットワーク事務所(二の宮2-1-3)  
11月29日(水) 10時~12時 ふれあいプラザ(下岩崎2164-1)